

山の百名花

遠足会員 入江 かをる

【7】ヒメサユリ（姫小百合）

ヒメサユリに出逢ったのは飯豊連峰であった。30 年も前のことで、コースなどほうる覚えである。7 月下旬、いつもの夏山縦走仲間と飯豊鉱泉から入山し、飯豊山荘まで縦走した。自炊の小屋泊まりで、荷は重くハードな山旅だったが、花の豊富なのは予想外だった（当時は花の百名山なんて情報はなかったと思う）。中でも印象に残っているのが、ヒメサユリとヒナウスユキソウである。その時は、ピンクの百合があるのに、まず驚いた。当時の私には、山に咲く百合といえばクルマユリやヤマユリ、ニッコウキスゲにクロユリなどで、ピンクは初めてだった。すぐに名前を覚えてもらい、東北の山には珍しくないことも知った。

ところで、私は山野草の図鑑を何冊か持っているが、とりわけ大切にしているのは、山岳写真家白簾史郎著の「高山植物」（3 分冊、東京新聞出版局）である。白簾氏の写真の「夜叉神峠からの白峰三山」の景色を見たくて行った夜叉神峠の小屋にあった。

「山に花あり」などの言葉を添えた署名入りである。3 冊はちよつと重いので躊躇したが、署名が魅力で結局 3 冊とも購入し、大切な本となった。ところが、なぜかこの本にヒメサユリは載っていない。

最近、ササユリという一回り大きいピンクの百合が西日本にあることを知った。雄しべの先端の葯の色がヒメサユリは黄色なのに対し、ササユリは褐色だという。いつか逢えるといいな。



【8】オサバグサ（箴葉草）

ヒメサユリの飯豊縦走を最後に私の若い日の山歩きは終わった。子育てと仕事に追われて、それどころではなかった。20 年経ち、子育ても一区切りで、縦走登山を再開したくなった。

「八ヶ岳を編笠山から蓼科山まで歩きたくない？」蓼科山の中腹にある山荘の仲間た

ちに声をかけると直ぐに賛同者が現れた。計画は短縮されて、赤岳からとなったが、山から遠ざかっていた身には不安があった。そこで脚慣らしと下見を兼ねて、6 月に北八ツの縞枯山と茶白山に日帰りで行ってみた。雨池峠からの登りは急登でアゴが出たが、10 cm ほどの茎に白い小花をいくつもつけた清々しい花に癒された。茶白山への登りにもたくさんあり、何枚も写真を撮った。風にゆれて、なかなかシャッターが切れなかった。

家に帰って調べ、オサバグサと知った。櫛状に裂けた葉が機織りの箴（横糸を通す道具）に似ていることから、箴葉草と名付けられたそう。前出の白簾氏の図鑑によれば、1 属 1 種の日本特産種だそう。葉がシダにも似ていることから、属名のプテリドフィルムは「シダの葉」の意味だそう。6 月には黄緑色の新葉と深緑色の古葉のコントラストも面白い。

二ヶ月後、本番の八ヶ岳縦走路でもこの特徴あるオサバグサの葉は随分目にした。花を見た事のある人が少ないのは、珍しいだけでなく花期が梅雨時のせいだと思う。